

大とよはし新報

古山よしはる活動報告



BIG TOYOHASHI NEWS

(2022年) 令和4年 - 通年号

編集・発行 古山よしはる後援会

〒440-0013 愛知県豊橋市西小鷹野一丁目13番地7
代表 (0532) 73-5758
Mail: info@furuyama4486.jp
HP: http://furuyama4486.jp

活動報告は各SNSで行っています
Twitter・Facebook・instagram

暮らしたと絆を守り、郷土の価値と誇りを高め、数えきれない恩「ありがとう」を未来へ――

いまを生きる人々の横の絆と、先人から子や孫への縦の絆を大切に、より良い豊橋を考えます。

日日是好日

（来る日も来る日も、楽しく平和なよい日が続くこと。日々を大切に生きる心構え）古山の日々の活動や思考をブログからピックアップして掲載します。

豊橋公園の名称変更賛否 炎上中・吉田城址豊橋公園？ 2022.5.2

豊橋公園の「名称変更」について、東愛知新聞さんが古山の所属する「NPO吉田城復元築城をめざす会」の代表、木戸さんの声を掲載して下さいました。賛否両論、じわり話題に上りつつありますよね。



今年3〜4月の吉田城春まつり（豊橋市観光振興課主催）前列中央が木戸代表、最右の武者姿が古山。

予てより前述のNPO（以下 当会 とします）や青年会議所などによる普及活動、公園の名称変更を求める提案書の提出など、民間有志の尽力があったことは言うまでもありません。しかし、行政が一步踏み出したのはごく近年。2年連続で起きた石垣崩壊が契機と認識しています。

今回、惜しむらくは一つ。世論の形成不足です。観光振興課や文化財センター、教育委員会教育部署等の皆さんのご努力には感謝ばかり。他方今次のようなコンセンサスを要する企画ならば、担当課以外の事業や広報での露出増など、事前に一定期間より広範囲への啓発訴求が定石であると考えます。

多くの市民は、吉田城がどんなものであるかをよく知りません。知らない人が、慣れ親しんだ公園の名称変更を耳にすれば、そりや驚き

ます。反感を持つ人が見えただけでもおかしくない。当然です。さりとて巷間の議論加熱は我々市民にとり、吉田城とは如何なるかを考える好機であることに間違いありません。心より有難く、喜ばしい事です。

続きや詳細は QRコードのリンク先でご高覧ください。



豊橋新アリーナ構想は良いけれど、場所はのんほいパーク隣りがいい。 2022.5.31

浅井よしはる市長の当選でゼロベイスになったはずの「新アリーナ構想」が完全に佐原市政の上書き保存で再スタート。唐突な豊橋公園の名称変更（私は賛成ですが）といい、再びざわめきを呼びそうです。

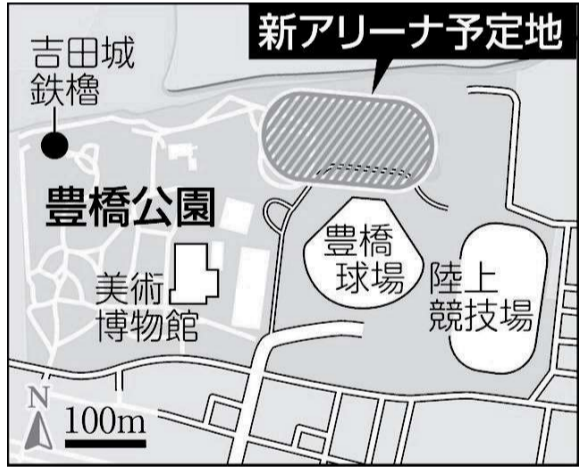
総合体育館の老朽やハザードマップ内という課題、三遠ネオフェニックスのホームタウン候補や街中振興防災拠点の提案など諸々「新アリーナを作ろう」という点は私も賛成です。：がしかし、予定地はどうして

そりや候補地検討に辺り、既存の老朽施設があり用地収用が必要ない豊橋公園は実現するスピードも早いでしよう。中心部振興への貢献も間違いなく。市長在任中に道筋をつけ（佐原案の上書きだが）将来的なお手柄としたい気持ちも：心ならずも穿って見る声だっているのでは。

私が新アリーナに最も期待したいのは全市的な防災拠点。振興は次点です。国に於いて将来的に4車線化を志す国1付近というのは良いんです。けれども、一方通行の多い公園周辺や八丁交差点から東田、はたまた創造大方面の交通状況は一層の課題となるでしょう。有事の際の緊急車両、通れませんか？

国1のみならず、災害時は複数の幹線道路を担保とせねばと考えるに23号も東三河環状線も決して近くない：振興メリットの一方で想定リスクは格段に高い。裏付けするデータも引用せず恐縮ながら、書きたいことを書いています。

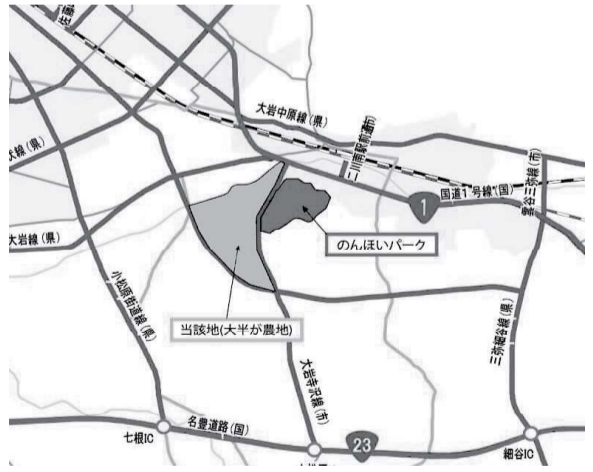
私はそれよりも、総合的に新アリーナは是非とも「のんほいパーク」西側付近へ置いた方が良く従前から愚考しています。



市の公表した新アリーナ予定地

豊橋公園より資金は掛かります。なぜなら土地収用が必要だから。しかし敷地が広く取れるメリットは豊橋公園と雲泥の差があります。大半は農地であり、代替農地等の交渉が必要ですが、住宅に比べれば障壁は低い可能性があります。防災的にも特別支所」を設け、本庁機能とは異なる「より実戦的部隊」を設置して

欲しいし、国1二川付近の渋滞解消に繋がる道路整備をして欲しい。



のんほいパーク周辺状況

これは将来的な道路整備計画からも、国1、東三河環状線、23号に近い「ジャンクション的」整備が望めるとも愚考しています。住宅密集地ではないので豊橋公園のような駐車場問題も解決と、ここらで略。

佐原市政時から深い議論をなされていることは理解しています。しかし今一度、住民の声はもちろん、国交省や危機管理課、警察・消防・自衛隊：関係各所の見識を取り入れて多様な観点から、より地域に資するものとなるよう、よくよく考えて欲しいものです。

続きや詳細は QRコードのリンク先でご高覧ください。



今日は朝から豊橋市戦没者追悼式です。 2022.6.13

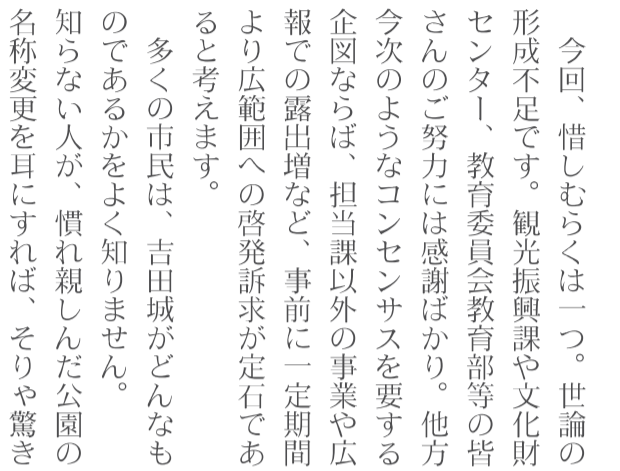
戦後七十七年。戦没者の兄弟や妻は減り、父または伯父のご遺族が大半となりました。しかし多くが70代以上、ご高齢の方ばかりです。もう公会堂の階段はキツイ。行政主催の公式な追悼式に加え、公会堂

のバリアフリー化を求めたいところ（エレベーターありますが、みんな正面から入りたいたいです）



毎年書いていますが、昭和16年の閣議により大東亜戦争（だいたいとあせんそう）と名付けられた先の大戦は、軍人軍属が230万人。民間人が80万人の、計310万人の方々が戦火に散りました。

豊橋市の戦没者は5552人。開戦当時の市の人口は14万人ですから、単純計算すれば25人に1人の方が亡くなっています。総人口からすると7300万人分の310万人。23.5人に1人が戦没者です。祖父母や親戚、私たちの多くは誰かしらの遺族なのでしょう。戦没者のうち112万人の方のご遺骨は、いまだ日本へ戻ることが出来ていません。海に沈む30万柱。北朝鮮など相手国の事情により収容できない23万柱。（裏面へ続く）



(表面より) 収容可能だけでも未だ戦地に眠る59万柱。厚労省やNPO等の有志により、今なお収容が進められています。今の何気ない普段の暮らしの礎に、こうした尊い犠牲があることを私は忘れません。



年々減りゆく参列者―戦争の記憶継承に課題

そしてまた、焼け野原の中を必死で生き抜き、命を私たちへ繋いでくださった父母、祖父母。今を生きる我々には、この史実を未来へ繋げてゆく責務があります。

先日少し書きましたが、僕らの爺ちゃんたちが祖国を想い命懸けで戦ったからこそ、今の僕らは国内で英語やロシア語を話したり、パスポートもなく自由に隣県へ足を運べます。しかしこの自由も未だ、米国の庇護の元での話ではありますが。パワーバランスが崩れた混沌の世界を顧みるに、我が国の未来を改めて憂います。全ての戦没者の皆様に衷心より哀悼の誠を捧げるとともに、今があることを心より感謝申し上げます。このありがたさを、未来へ。今度は我々がつなぐ番です。

続きや詳細はQRコードのリンク先でご覧ください。



交通安全運動―事故全体の抑止効果は大きい「黄色の旗振り」で注意力を刺激する。

2022.7.20

交通安全運動は本日ファイナル！昨日の豪雨と打って変わり快晴。風あり雲あり気持ち良い。携わられた皆様、大変お疲れさまでした！

全国交通安全運動は歴史も古く、スタートは昭和23年の占領下です。筑波大学の研究データでは交通事故による死亡者数が、実施しない期間よりもマイナス2.5%減少とされています。

数字を見る限り効果は限定的。しかし青パト同様、事故全体に対する「抑止」効果は大きいでしょう。注意力つてのは時々刺激しないと緩みますからね。



地域のきずなで安全安心

巷では「黄色の旗振りオジサン邪魔！」なんて声もあります。組長やPTAとなり、よく分からないまま道路に立てば、時に危険なこともあります。実施要領の再確認、周知のうえ、ドライバーも歩行者も、みんなが安全で快い交通状況を保ちたいものです。

続きや詳細はQRコードのリンク先でご覧ください。



過去活動―地域と共に

過去取り組んできた活動や、現在も継続している活動です。

自治会役員―

西小鷹野自治会の副会長、鷹丘校区自治会の理事として地域の諸行事に携わらせて頂いています。

毎月の組長会議、とよはし広報の振分作業、資源回収、老人会の皆さんの花壇の植え替え、成人式の準備、交通当番など多岐に亘ります。

地域のことを地域の人々で行うことが自治会の要旨。しかし携わって初めて知る苦労も多く、住みよい街の陰に奉仕の心があることを身染みて感じています。

共働きと核家族の増加により近所づきあいが減りつつある現代、自治会の皆さんとの協働は自然災害等の有事の際、命を助ける最も重要な活動と捉えています。

とはいえ現役世代や子育て世代にとっては負担も小さくなく、今後の在り方を検討することは焦眉の急を要すと考えます。



毎月の組長会議

青パト隊―

自家用車に青色の回転灯(パトライト)を装備して校区を巡回しています。市内52校区のうち21校区に青パト隊が設置されており、主に校区の防犯協会や自治会などで組織

されています(結成には県警への申請、講習が必要です)。街を巡回していると、本当に様々な物や事が目に入ります。信号無視や不法投棄に始まり、いつも楽しそうにワンちゃんを散歩する公園の常連さん、行き合ふと敬礼してくれるちびっ子たち―事故に遭遇すれば誘導し、時に車を降りては語らい、横断歩道を渡る人とアイコンタクト。決してとり締まるわけではなく、抑止であり、みんなの安寧な日々を見守っていますというアプローチ。

時に邪魔くさいなと煽られることもあるけれど、想いを共有する人々が数多く見える幸福感があります。



主に仕事帰りに巡回

要望を市役所へ―

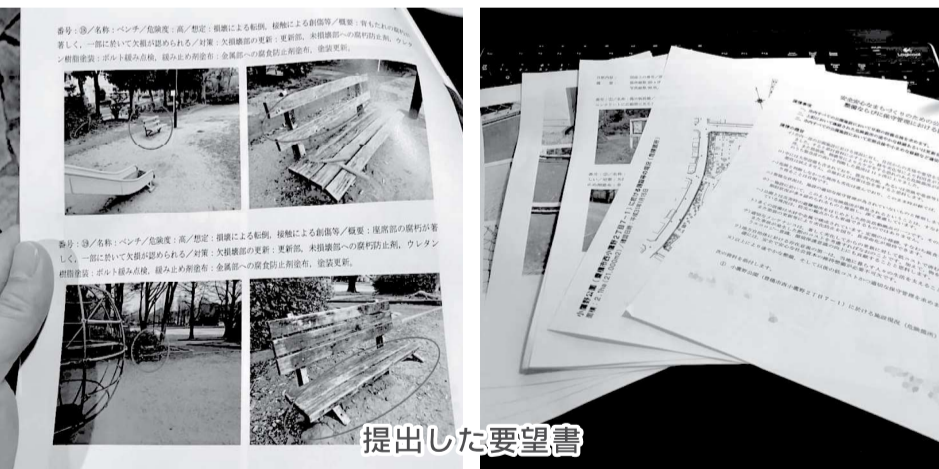
地域を足繁く廻っていると様々な声を耳にします。予ては側溝のドブ臭いや台風による信号の角度異常など、それぞれ市役所や警察等へ要望して対処を頂きました。行政のみでは細かな点まで目が行き届きません。地域の声を届けるということは実に大切なことだと思います。

数年前には小鷹野公園に於いて、ベンチや遊具、野球施設等の劣化状況が酷く危険な状態であったため、独自調査をして詳細の写真付き書面20ページを持ちより、公園緑地課へ切なる要望を行いました。

対応は「認知はしているが、予算が無くて中々進まない」お決まりの返答です。自治会役員となる以前の市民としての要望でしたが、軽くあしらわれてしまいました。

職業柄、役所関係の書類作成に慣れていたため、続いて今度は「速やかな対処」を求める陳情書を市議会へ。しかし、思わぬ圧力を受けて取り下げること。一市民の力の弱さを深く感じました。

しかしながらそれから数か月経ち、要望した箇所の多くの修繕が少しずつ進められることに。危険回避を訴求した判りやすい書類作成の効果は高かったものと思います。特に「建て替えは高額だから困難」と言われた野球フェンス(地震での倒壊の危険がありました)の基礎補強工事が為されていたことには驚き、心から感謝しています。安全安心にはきちんと声を挙げることも。またそのための伝達力が大切と認識しています。



提出した要望書

後援会員募集

古山よしはる後援会では希望あふれる豊橋を志すため積極的に会員を募集しています。市民の声を市政へ―

古山 由晴 (ふるやま よしはる)
1980年生 東京都出身・2004年から豊橋市在住。
高校中退、高卒認定を経て法政法学部(在学)
根本幸典事務所▶森重造園土木(株)専務取締役
自民党員・自衛官募集相談員・商工会議所青年部
豊橋陸軍墓地清掃奉仕会・防災士・氏子総代
その他来歴はHPをご覧ください!検索▶「古山よしはる」



申込方法:
左記QRコードをスマートフォンで読み込んで申込ページへ。またはメールで「氏名・生年月日・住所・電話番号」をinfo@furuyama4486.jpまでご送信ください。



(申込ページ)

くらしと絆を守り、郷土の価値と誇りを高める。数えきれない「ありがとう」を未来へ―